

平成28年9月14日(水)

老球の細道267

第53回高校選抜会津地区大会雑感

会津バスケットボール協会 室井 富仁

今大会もまた男女とも若松商業の1強ダントツ優勝となった。若松商業の抜きんでた実力は誰しもが認めるところであるが、この状態が変わらず続くようであれば、若松商業の強化にもならないし、地区全体のレベルアップにもつながらない。何事も同じであるが、群雄割拠の競争がなければ発展、向上はありえない。

若松商業以外のチームのコーチ、選手はミラクルを起こす気概を持って大会に臨んでほしい。最初から自分たちのチームの実力を決めつけて戦っているのでは「番狂わせ」など起こせない。他人に決めつけられるのは面白くない。しかし自分で自分の力を決めつけるのは平気だ。その結果、いつまでたっても強いチームは強い、弱いチームは弱い。

良いメンバーがそろったら強くなると思っているかもしれないが、そのような考えを持っているチームに限って良い選手がそろっても結局そこそこのチームにしかならない。良い素材がいなくても「番狂わせ」を起こす気概を持って日々チャレンジしているチームが、今勝てなくとも良い素材がそろった時大ブレイクするものである。

「人は自分の思ったようにしかできない」とよく言われるように、「1番になりたい」と本気で思い、本気になって努力するチームが1番になるチャンスをつかむ。「2番、3番でいいや」と思うチームは、やはり2、3番に見合うだけの努力しかせず、その結果、その努力に見合うだけの成績しか残せない。

ゲームの内容については、二つのことが気になった。

一つは、ターンオーバー(ミス)が多すぎる。原因を特定化して練習で解決しないとターンオーバーは永遠と続く。漠然とファンダメンタルができていない、初心者だ、集中力がないなどでかたづけたい。二つの観点で課題を指摘したい。一つは個人のスキルの問題でストップの未熟さから由来していると思われる。特にプレスをしかけられるとミスが続出するチーム、プレイヤーは例外なくストップがきちんとできない。ストップは単に動きを止めるだけではなく、バランスを整え、状況判断をする目的がある。もう一つはチームプレイの問題である。スペースが狭い状態で攻撃するから、ヘルプディフェンスにボールマンがつぶされてミスを誘発する。レベルの高いゲームでもスペースの狭いチームはミスをする。広いスペースでオフェンスを組み立てる練習が必要だろう。

二つは、シュートが入らないことである。バスケットボールはシュートが入ることによって勝敗を決するゲームである。シュートが入らなければゲームに勝つことはできない。シュートの入らない最も基本的な原因は何か。「シュートフォームが悪い」、これにつきる。正しいシュートフォームとは何か、この原点に立ち返ってほしい。

世界のバスケットボールを知るトステイン・ロイブル氏は「世界のファンダメンタルは変化、進化している」と会津で語っていた。「井の中の会津」と言われないように、コーチ、プレイヤーが世界のバスケットボールを研究して真似しなければならない。

今現在実力が二流、三流だろうが、どうせやるなら目指すは超一流を。このような気概が番狂わせ、ミラクルを起こす。坂口安吾曰はく、「青春とは奇跡を起こすことである」。「U-65」の私の心にも響いてくる言葉である。